



「知来館」と一緒に建てられた、毛利空桑の旧宅「天勝堂」。1階は5室、2階は3室からなり、2階のはしごは防戦のため取り外しができる構造になっている。江戸時代の塾と居宅が二つ揃って保存されているのは九州でもここだけという貴重なもので、全国的にも珍しい。大分県指定文化財。
毛利空桑記念館（鶴崎381-1 ☎521-4893 開館時間：午前9時～午後4時30分 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日、第1週は火曜日が休館日））



肥後藩主の参勤交代の要所となっていた鶴崎の船着場跡に現在建てられている石碑。



勝海舟と坂本龍馬の石像。2015年に毛利空桑記念館前にある「空桑思索の道」に建立された。足元には、海舟が鶴崎に宿泊したときに詠んだ句や海舟日記の一部が刻まれている。



鶴崎町絵図
1799～1814年に描かれたと推定される。御茶屋を中心に藩の諸役所や武士の屋敷が置かれた。



熊本藩船鶴崎入港絵馬（劔八幡宮所蔵）
鶴崎は参勤交代などに利用する港湾としての機能があり、舟の出入りがしやすいようにと整備された。多い時は67隻が藩主の舟に付き従っていたといわれている。



細川氏御座船鶴崎入港図（大分市歴史資料館所蔵）
中心に大きく描かれているのが肥後藩の参勤交代で使われた「波祭之丸」。何度か造り替えられているが、名称は藩主の御座船として受け継がれていた。

肥後藩「鶴崎」に残された記録

毛利空桑（1797-1884）

幕末の儒学者、教育者。1837年に肥後藩鶴崎御茶屋での講義を任せ、知来館を鶴崎新町に移す。帆足万里の門下生であったとき、その学の高さから「帆門四天王」の一人に数えられていた。



毛利空桑記念館所蔵

を通じて「正しい人間の生き方とは何か」を熱く説き続けた。その志に共感した吉田松陰、水戸藩の斉藤監物らが空桑を訪ねた。
2015年、毛利空桑記念館の前に勝海舟と坂本龍馬の石像が建てられた。彼らが鶴崎を訪れたことを伝えるため、地元を中心とした勢の有志による募金活動などを通じて造られたものである。石像には、海舟が鶴崎に宿泊した際に詠んだ句が刻まれている。
「大御代はゆたかなりけり 旅枕 一夜の夢を 千代の鶴さき」
鶴崎での一夜を楽しく過ごした二人の様子がうかがえる。

二人が鶴崎で宿泊したとされる本陣（いわゆる御茶屋 藩主の休憩所・宿泊所）は、もともと「鶴崎城」だった場所で、1600年以前には、現在の鶴崎小学校や鶴崎高校がある場所に城が存在し、大友宗麟の家臣・吉岡宗敏が治めていたと言われている。
関ヶ原の戦いで徳川方に付いていた肥後藩主・加藤清正は、その功績として1601年に家康より鶴崎を飛び地（城がある領土に対して遠隔地に分散している領地）としてもらい受け、御茶屋を造った。鶴崎の御茶屋は政治・経済・軍事の機能も備えていた。鶴崎は瀬戸内海に臨む海の玄関口として、陸海路の利便性に優れた場所であった。清正是港湾整備のため、堀川の開削や乙津川の分流の埋め立てなどを行い、参勤交代の要地として整備した。
毛利空桑は、幕末から明治初期に活躍した儒学者、教育者で、1813年に帆足万里のもとで儒学を学び、高い学識を持っていた。勝海舟も、帆足の門下生である空桑を「師匠勝りの気節に富んだ男」として訪ねたとされている。
1824年に開いた私塾「知来館」には、遠くは京都、岐阜などから生徒が集まり、門下生は890人を超えたといわれる。空桑は生涯